

川崎医科大学における大学連携活動について：その 12 － 2019年度半ばから2020年度半ばにかけての活動－

大槻剛巳^{1,2,3)}, 福永仁夫^{4,5)}

- 1) 川崎医科大学大学連携活動担当副学長補佐
- 2) 川崎医科大学衛生学
- 3) 大学コンソーシアム岡山 (川崎医科大学運営委員, 各種常設委員会委員,
将来構想委員会委員, 社会人教育委員会委員長)
- 4) 川崎医科大学学長
- 5) 大学コンソーシアム岡山 (川崎医科大学代表者)

(令和2年10月2日受理)

External activities such as university cooperation and others in Kawasaki Medical School: Part 12
－ Activities from the middle of the 2019 fiscal year to the middle of 2020 －

Takemi OTSUKI^{1,2,3)}, Masao FUKUNAGA^{4,5)}

- 1) *Vice President Assistance Specialized in University collaboration,
Kawasaki Medical School*
- 2) *Department of Hygiene, Kawasaki Medical School*
- 3) *Consortium of Universities in Okayama; Acting Committee Member of Kawasaki Medical School,
Member in All Permanent Committees, Elected Member of Committee for the Concept
for the Future, Chairperson of the Continuing Education Committee*
- 4) *Dean, Kawasaki Medical School*
- 5) *Deputation from Kawasaki Medical School in the Consortium of Universities in Okayama
(Accepted on October 2, 2020)*

抄 録

川崎医科大学では、様々な大学連携活動に参画している。これらのうち筆頭著者が担当している岡山県内の事業の中で、大学コンソーシアム岡山と倉敷市大学連携推進会議について、2019年度後半から2020年度前半の活動状況を報告する。大学コンソーシアム岡山では、2020年度から岡山医療専門職大学が発足し参入された。本学では、大学教育事業部の中の単位互換と社会人教育事業部での吉備創生カレッジへの科目提供を行っている。2019年度終盤からは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、大学コンソーシアム岡山の事業も中止や延期が続くこととなった。なお、筆頭著者が担当している社会人教育事業部では、「吉備創生カレッジ」のスリム化と、「備美と大学キャラバン隊」の発足は特記すべき点である。倉敷市大学連携推進会議では、おかやま高梁川流域倉敷市大学連携講座への科目提供を実施している。これらの参加している事業について、考察とともに今後の課題を検討する。

キーワード：大学連携事業, 大学コンソーシアム岡山, 倉敷市大学連携推進会議, 国際医学生連盟

Abstract

Kawasaki Medical School (KMS) participates in various activities related to university collaboration. Among these projects in which the first author is in charge and performed in Okayama Prefecture, we report on the status of activities from the second half of 2019 to the first half of 2020, focusing on the Consortium of Universities in Okayama (CUO) and Kurashiki City University Collaboration Promotion Council (KCUCPC). In CUO, Okayama Healthcare Professional University is newly established on April, 2020 and joined to CUO. KMS contributes to CUO to provide course to credit exchange in the university education project as well as courses for “Kibi Sosei College” in the continuing education project. In addition, the Continuing Education Committee (in which the first author is performing chairperson) presents reform proposal of projects. The slimming “Kibi Sousei College” down and the establishment of the “Bibiitto University Caravan Corps” are the notable points. Here we report on its progress. KMS also offers courses for university collaboration courses at the KCUCPC. We consider future issues as well as discussions about these participating projects.

Key words: Universities Cooperation, the Consortium of Universities in Okayama, Kurashiki Universities Collaboration Meeting

1. はじめに

川崎医科大学は、種々の対外活動を行っており、大概が2009年度より学長補佐、2012年度よりは副学長補佐として携わってきた活動については、年次報告およびそれらに対する考察を報告してきた¹⁻¹¹⁾。この間、中央研究部、研究支援係や国際交流委員会などの設置と業務の充実が達成され、特に産学官連携活動については、2016年度より産学連携知的財産管理室が発足したことを受けて、別報した¹²⁻¹⁴⁾。よって、本稿では川崎医科大学の大学連携活動である大学コンソーシアム岡山と倉敷市大学連携会議について述べる。

なお、倉敷市との包括協定の事業の一環として、学園内の知的資源を地域に還元し倉敷市民の健康づくりや医療福祉の推進に寄与していくことを目的として「川崎学園市民公開講座」シリーズが2018年4月から始まった¹⁵⁾。月一回開催されていたが2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の防止と来場者および関係者の安全を考慮し、全面的に中止となった。しかし、学園の所掌の事業であるため本稿では触れない。

2. 大学連携事業

1) 大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山¹⁶⁾の事業目標、参加機関等については表1に示す。2006年4月の発足から15年目に入っており、一期2年の代表校は、2020年度から岡山県立大学になっている。現在、岡山県内の4年制大学すべて(2020年度4月から岡山医療専門職大学¹⁷⁾が開校し参入されたので計18大学となった)が会員となっており、加えて岡山県と岡山経済同友会が会員である。なお、特別会員として短期大学や津山工業高等専門学校なども参加しているが、川崎医療短期大学も含めて4つの短期大学は入会していない。

大学コンソーシアム岡山の事業は表1に詳細を記したが、基本的には会員の会費によって運営されていることにより、現状の事業の遂行以外に新機軸を打ち出せない状況である。県や経済同友会も、基本、大学の会費と同様で、大学はそれに加えて学生数に合わせた変動制の追加会費も支出している。

なお、2020年度からの種々の委員会での会議

表1 大学コンソーシアム岡山の事業目標、参加機関ならびに事業部と委員会（2020年度）

1. 事業目標	大学相互の協力と情報交換・地域経済界との交流・地域社会との交流と生涯学習の推進・地域高校との連携・地域創生学の構築・地域発信による国際交流
2. 参加機関	
1) 大学（18大学）	岡山大学・岡山県立大学・新見公立大学・岡山医療専門職大学・岡山学院大学 岡山商科大学・岡山理科大学・川崎医科大学・川崎医療福祉大学・環太平洋大学 吉備国際大学・倉敷芸術科学大学・くらしき作陽大学・山陽学園大学 就実大学・中国学園大学・ノートルダム清心女子大学・美作大学
2) 大学以外	岡山県・岡山経済同友会
3) 特別会員（短期大学および高等専門学校）	倉敷市立短期大学・山陽学園短期大学・就実短期大学・中国短期大学 津山工業高等専門学校
4) 賛助会員（事業に協賛する高等教育機関等および個人）	現在は登録なし
3. 事業	
1) 岡山県との包括連携協定事業	
2) 大学教育事業部	委員会 ①共同教育 ②障がい学生支援
3) 社会人教育事業部	委員会 ①社会人教育
4) 産学官連携事業部	委員会 ①地域貢献 ②就職支援
5) 運営委員会（各大学の実務窓口担当教員の会）	
6) 企画会議（各委員会の正副委員長と大学以外会員の担当者の会）	
7) 将来構想委員会（運営委員会から選択された委員により全体像や将来像を検討）	
8) 事務局（2年任期の代表校学内に持ち回りで設置）	

を実施するに当たって、筆頭著者が所掌している社会人教育委員会は、4月半ばにメール会議を実施した。その後、遠隔会議の方法について、代表校学長や運営委員長、事務局長などで検討し、5月中旬にZOOM®を用いたWeb会議を実施することになった。5月18日に障がい学生支援委員会、6月17日に地域貢献委員会、6月25日に共同教育委員会がWeb会議で実施された。さらに、8月24日の障がい学生委員会の研修会もWeb開催となった（130名以上のログインがあった）。ただ、8月27日に実施された就職支援委員会は、委員長の意向とともに、5月25日

の緊急事態宣言の解除もあって、マスクと手洗い、さらに三密避けを徹底した上での対面式（大学によってWeb参加も許可）会議で実施された。また、8月31日の午前にはWeb会議での企画会議の後、午後は岡山県立大学を会場に運営委員会が対面式で催された。さらに、9月15日には、代表者会議も対面式で催された。これは各参画大学の学長、大学と県および経済同友会からの3名の副会長とともに各委員会委員長も参加し、半期に一度実施される大学コンソーシアム岡山としては種々の決定を行う最高位の会議である。

本学では、表1の3-2)-①の共同教育委員会が担当する単位互換制度に2020年度は「生命科学1」を提供したが、本学の授業も4月上旬からすべて遠隔授業に変更になったため、教務課での煩雑さも考慮して、他学からの受講を受け入れないこととした。また、2019年度までの対面授業でも、未だ他大学からの受講生は皆無である。この事業については、本学も含めて1コマ60分の授業を導入してきている大学、あるいはクォーター制度を導入した大学などもあり、学生が実際に他大学に足を運んで授業を受ける方式は転換期に至っている印象も強い。ただ、2020年度は数人ながら受講希望者に対して、単位互換制度による遠隔授業での受講を認める受入大学もあって、今後の授業などの在り方においても一つの実例となっていくかも知れない。

表1の3-3)は筆頭著者が委員長を務める社会人教育事業部であり、有料の市民講座シリーズである吉備創生カレッジを展開している¹⁸⁾。ただ、2018年度の最後の代表者会議で、受講者減や些少すぎる講師謝金などについて改善を求められ、2019年度に対応案を検討した。その詳細については、前回の大学連携の報告にて紹介した¹¹⁾。ただ新型コロナウイルス感染拡大と時期が重なり、まだ、改革の評価は十分に行えないのだが、成果を後述する。

なお、表1の3-1)に則って、2017年度より岡山県大学ガイドが、県のウェブサイトおよび冊子体で作成されるようになり本学も掲載されている^{19,20)}。

大学コンソーシアム岡山では、表1の3.4)①、地域貢献委員会が所掌する「日ようび子ども大学」や「エコナイト」というイベントと事業も展開しているが、2017年以降、本学は参加していない。不参加の理由については既報⁹⁾に記載したためここでは割愛する。また、これらのイベントは、2020年度は中止となった。ただし「エ

コナイト」については、岡山市奉還町商店街の夜市の枠での開催が中止されただけで、運営委員会や代表者会議の所掌委員会の報告によると、各大学でのライトダウンなどは、数校で実施された。

その他、大学コンソーシアム岡山では、障がい学生支援委員会による研修会、就職支援委員会などがあり日程が合えば参加しているが、本学の医科単科という特性と展開されている事業は、十分に合致はしない。

2) 大学コンソーシアム岡山における社会人教育委員会の諸所事業の改革後の変化

2018年度末の代表者会議で会長より吉備創生カレッジの改善が求められた。詳細は昨年の報告に記載した¹¹⁾。全体的な受講生の減少とともに、予約者が少ないことで講師との相談の上休止せざるをえなくなった科目が増加傾向にあること、講師謝金が安価なこと、入会費や受講料が比較的高額や、運営側としても少人数の受講生の場合に講師の先生には、まことに遺憾であったことやマンネリズムを感じていたため、適切な指摘と感じた。ただ、山陽新聞社との共催事業という意義、スーパー受講生とでも呼べる100単位(1単位は90分を6コマ受講)以上を受講されている若干名の存在、年単位では延べ700から750人程度が受講していること、さらに、每期20~25%は新規入会者であることなどの評価価値も改めて抽出した。

考案と論議を重ねて、図1の上段右に示すような1コマ1科目の単発講義、人数による中止規程、コマ数の削減によって入会費や受講料を減額し、1単位取得も5コマと緩和した。一般者向けのポンチ絵は図2とした。コマ数の削減は、2019年度まで3コマで1科目として、年間70コマ程度あったので、210コマ前後が行われていた。しかし2020年度は、前期はコロナ禍で中止がなかったとして27科目、後期は24科目で、年間51科目(51コマ)となった。その分、大学

社会人教育事業部改変案



吉備創生カレッジについて各大学へ現状と課題についてのアンケート調査

評価価値

- 山陽新聞社との共催事業
- スーパー受講生:数名 (100単位(1単位=90分×6コマ)超)
- 年単位延べ700~750名の受講
- 毎期、新規入会者20-25%
- 13年目となり定着

問題点

- 受講生減(中央値7-9人/科目)
- 横野代表よりの苦言@代表者会議
- 数名受講生の科目の講師に遺憾
- 会場限定(←共催による・県南居住者中心の受講)
- マナーリズム
- 中止科目の出現(予約:希少~0)
- 講師謝金が低額(¥1,500/90分)
- 1科目隔週・同曜日・同時開催で3回という制約
- 多くの大学で学部ローテーション制度で科目提供
- 入会費¥2,160+受講料¥2,270/科目

改善案

- 講師謝金の増額(¥3,000/90分)
- 予約者数による中止規定の策定
- 5人未満で中止/1w前
- 講師の希望があれば1人でも
- 3コマセットを中止し1コマ科目に変更
- 各大学に受講生多数が見込める科目提供を依頼

「社会人教育事業」の概念拡大→事業見直し

- A) 吉備創生カレッジ
 B) 共同SD講座(他事業部との共催)
 C) 備美つと大学キャラバン隊(COC+事業「コミュニティキャンパスおかやま」内での大学コンソーシアム岡山との共同事業)
 D) 公開講座(美作大学・津山高専連携事業)

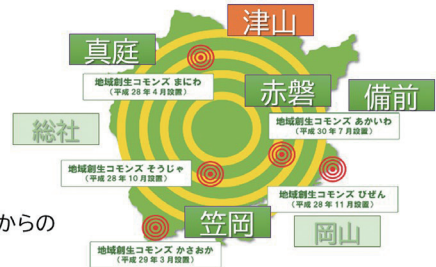
課題

1. 事業部経費は固定(40-45万円)
2. 大学コンソーシアム岡山事務局の業務拡大は非現実的

備美つと大学キャラバン隊 (COMONS使用)に15万円前後

COC+事業: コミュニティキャンパスおかやま

「コミュニティキャンパスおかやま」はCOC+参画大学からの提供シーズを、ニーズに合わせて地域が選択する。



新・吉備創生カレッジに30万円前後

具休案	新事業
講師謝金	増額
科目単位	1コマ/科目
コマ数	その他経費を不変と仮定して、全体で約30万円前後
その他経費	不変と仮定
各大学提供科目	1~2 (各期・17~34コマ=34~68コマ/年)
受講生費用	入会費¥550 (カード実費) 科目 (1コマ) ¥1,000 (税込み)
各大学での提供科目	積極的に受講生の多い科目提供を依頼

地域と大学が協働する

コミュニティキャンパス おかやま Community Campus Okayama

大学コンソーシアム岡山

本事業

- 各大学の研究シーズの活用し地域に向いて社会貢献活動
 - 地域のニーズに即した取り組みとして展開
 - 地域が教育活動の実践の場
- 大学コンソーシアム岡山との共同事業
備美つと大学キャラバン隊
 ✓ 地域のニーズに合った教育事業

具休案&検討課題

- 大学非所在4COMONS(赤磐・備前・笠岡・真庭)+津山(津山は上記D)の公開講座)で年1回
 - 岡山は吉備創生カレッジ
 - 総社は大学所在にて留保
 - キャパは20-30名/COMONS
 - 各市担当者と協議(2019年年末→2020年8月末) (大槻、矢延、原(県立大)、末岡(運営委員会)、他2名)
- 4か所として、1回¥35,000予算
 - コンソと市の経費分担の協議
 - 交通費・講師謝金・広報代金
 - 集客/広報手法
 - 受付業務などの事務担当
 - 司会などの担当
 - AV機器などの設備
 - 交通手段

図1 2020年9月15日に実施された大学コンソーシアム岡山の2020年度前期代表者会議に提出された社会人事業部改変案

市民の生涯教育に向けての共催事業

Since 2007

社会人・地域社会の皆様へ

吉備創生カレッジ

吉備創生カレッジ さん太キャンパス

吉備創生カレッジプロモーションビデオ

5科目の受講で1単位取得
8種類の講座の中から合計で20単位以上取得された方には「認定証」を授与

あなたの向学心と知的好奇心に至福の満足!

吉備創生カレッジ

吉備創生カレッジ さん太キャンパス

毎週土曜日に開催
さん太キャンパス
公民館・図書館など
に開催

検索

詳しくはチラシで

授与の様子

山陽新聞社

さらに一步、
地域の中へ

- 各期開催時に山陽新聞紙面にて全科目紹介
- 月単位で開講科目の紹介
- さん太キャンパスとしてカレッジビルで実施
- 入学料(入会費)550円
- 各科目受講料1科目(1コマ)1,000円
- 学生(入学の市民の方)の特典
 - 学生は学生証により山陽新聞社が行う各種展示会などの文化催しに優待します(但し一部を除きます)
 - 山陽新聞旅行社のツアーには原則として特別優待割引があります。
 - 山陽新聞カルチャープラザに入会される場合、入会金(3,300円)は免除となります。ただし、カレッジの受講が1年以上無い場合、カルチャープラザの入会金は必要となります。

図2 2020年から吉備創生カレッジの一般者向けのポンチ絵。大学コンソーシアム岡山のウェブから、吉備創生カレッジのパナーをクリックし、「講座の概要」からこの図がPDFファイルとして提示される。

コンソーシアム岡山の経費から支出している講師謝金枠の中で、1コマ当たりを倍増することが可能となった。ただし、共催の山陽新聞社としては、年間70科目(コマ)程度は、パンフレット制作費、新聞広告制作費、受講者への郵便代、電話代などにかかった経費で換算すると収支のバランスが合わないとのことで、2021年度からは、18大学に原則1大学、前後期に2科目ずつの提供(年間72コマ)を依頼する方針を考えた。

しかし、4月と5月に予定されていた科目はコロナ禍と緊急事態宣言を受け、今年度からの代表校の岡山県立大学の沖学長(大学コンソーシアム岡山の会長)と末岡副学長(大学コンソーシアム岡山の運営委員長)に判断を仰ぎ、すべて中止した。さらに6月以降も講師の希望により休講科目が生じた。しかし、8月末の時点で科目当たりの平均受講(もしくは予約)者数は12.8人で、2014年から2019年の計12期の中で、

この値を上回るのは2016年前期の14.7人のみであった。勿論、科目におけるコマ数の違いもあるが、90分講義を3コマ受講しないと1科目と認められなかったことを考えると、1コマ単位で予約も可能となり、良い方向に向いたのではと考えている。

ちなみに、表2に本学から吉備創生カレッジに提供した科目について提示しているが、2019年の科目は、予約者が少なく中止となった。丁度、2019年5月23日に岡山県医師会が旗を振る受動喫煙防止条例の制定を求める推進協議会は岡山市で県民大会を開き²¹⁾、同年9月4日付で、岡山県受動喫煙防止条例制定要望書を県知事と県議会に提出した²²⁾。ニュース報道もされていたためテーマとして話題性があると判断したのだが残念であった。また、2020年度前期は、筆頭著者や衛生学教室と一般社団法人ディジュリドゥ健康法普及協会²³⁾との共同研究で、アボリジニの伝統楽器であるディジュリドゥを用いた

表2 2019年度後期、2020年度前期および後期の吉備創生カレッジへの川崎医科大学提供科目

科目名	講義年月日 (含:予定)	担当教員 (所属)	内容
2019年度後期 (予定されていたが事情により中止) (2019年度後期までは1科目90分を3コマ、隔週同曜日、同時時間帯で設定)			
タバコの健康被害を 考える	2019年 11月20日	中田 昌夫 (呼吸器外科学)	タバコとがん
	12月4日	小賀 徹 (呼吸器内科学)	喫煙と非癌呼吸器疾患
	12月18日	依田 健志 (公衆衛生学)	受動喫煙, 電子タバコも含めた健康への影響
2020年度前期 (2020年度より、1科目1コマ90分の単発講義となる)			
科目名	講義年月日 (含:予定)	担当教員 (所属)	内容
ディジュリデュ 健康法の紹介	2020年 5月29日	大槻 剛巳 (衛生学)	※ 新型コロナウイルス感染拡大により中止。
2020年度後期 (予定)			
ディジュリデュ 健康法の紹介	2020年 12月3日	大槻 剛巳 (衛生学)	※ 前期の内容を後期に実施。

健康法について、気分、ストレス、自律神経系の安定性に良い効果が得られたこと²⁴⁾を受けて、その紹介の科目提供であった。しかし、コロナ禍で休止となり、後期に日程変更した(執筆時点ではまだ開催前である)。

なお、図1の中段にあるように「備美っと大学キャラバン隊」が2020年度の社会人教育委員会の新事業であり、目玉となる場所であった。昨年の報告に経緯の詳細については記したが、2019年12月末に委員長である筆頭著者、大学コンソーシアム岡山事務局長の矢延氏、さらに岡山県立大でのCOC+事業²⁵⁾の調整の中心として活動されてきた原氏とで、4市(訪問順に真庭市、備前市、赤磐市および笠岡市)を行脚し、各市で原則的な同意を得た。ただ、2020年の3

月に、2020年度に向けて具体的な調整に入ろうとした段階で新型コロナ感染症が拡大し、各自治体ともにその対応に業務が逼迫しているであろうことを鑑みて、しばらく静置していた。7月頃から第2波となったが、緊急事態宣言が再度執行されることもなく、8月以降は、「ウイズコロナ」としての新しい生活様式に基づいた種々の会などが徐々に開催されていく傾向が全国的にも生じてきた。さらに大学コンソーシアム岡山としては8月31日に運営委員会、9月15日に代表者会議が予定されていたこともあり、その報告上も重要な課題であったため、8月21日に2019年末のメンバーに加えて、末岡運営委員長、および岡山県立大学の社会人教育委員やCOC+の後継事業を担当されている教員も含め

て、再び4市を訪問し、再度の確認とともに具体案の提供を依頼してきた。その結果、真庭市からは11月の開催事業でのSDGsについての講師派遣の依頼があり、また、備前市などからも問い合わせを頂いている。2020年度は発足の年度であったが、コロナ禍で難渋したこともあり、それでも、1~2の企画が実施できれば2021年度以降に希望が持てることになる。

3) 大学コンソーシアム岡山における2020年度前期の代表者会議での討議

2020年9月15日に前期の代表者会議が岡山県立大学にて対面式で実施された。その中で、副会長を務められている美作大学・鶴崎学長より「今後の基本活動に関する提案」が提示された。

文部科学省の地方大学政策としての「2040年に向けた高等教育の将来像答申(中教審2018)」²⁶⁾で、以下の7つの大学の機能を、個々の選択と共に、共有しながら、地域としての高等教育の質を高めることが求められたことを一つの考え方の柱とされていた。7つの機能とは、①世界的研究・教育拠点、②行動専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野(芸術、体育等)の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、そして⑦社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)である。さらに、2020年9月2日の内閣府まち・ひと・しごと創生本部「地方創生に資する魅力ある地方大学実現に向けた検討会議(第1回)」²⁷⁾に文部科学省から提出された「地域における大学等の連携・統合の促進に向けた方策(案)」²⁸⁾に則った論調で、その必要性を訴えられた。

さらに、もう一つの柱としての岡山県に立地の大学群を特色づけることとして、2018年からの岡山大学会長校時期から展開されているSDGsのコンセプトの推進、さらに教育では、災害対応力の要請(防災士講座の共通開講など)や、新型コロナウイルスを受けての「感染症対策

講座」などのオンライン展開などを提案された。

これらについては、まずは討議の端緒という位置付けとなったが、岡山理科大学・柳澤学長からは、さらに産学官連携の色合いを付与すべきとの発言があった。

ただし、鶴崎副会長の言葉にも「スクラップ&ビルド」という文言があったのだが、実際に現在、大学コンソーシアム岡山の経費は前述した通りで、現行の事業展開でほぼ精一杯となっている。新規事業を開始するならば、何かを終了するか、会費の値上げを断行するしかなく、一時期、岡山オルガノン事業の継承に会費増の提案があった際には、本学も含めて、それならば退会を選択するという考え方の提示もあったことから^{1,4)}、慎重な討議も必要な印象である。さらに、防災士や感染症というのは、2018年の西日本豪雨被害、そして2020年の新型コロナウイルス感染症を受けての提案であるが、このテーマが2040年を見据えたことにならず、常に新しいテーマなども想定外に噴出してくる可能性がある。その場合に、大学コンソーシアム岡山全体で、全大学が参画するような学生(一般市民も加えることの可能性もあるが)の単位互換などのオンライン科目を保有し、臨機応変に、その時々々の社会の課題を教育する場を設定しておくという読み換えが可能ではないかと考えられる。

今年度、地域貢献活動なども中止せざるを得なかった。これを一つの機会として「スクラップ&ビルド」を各委員会でも検討し、また、代表者会議でトップダウンによる変革も必要な時期には来ているのかも知れない。今後の検討に注視していきたい。

4) 倉敷市大学連携推進会議

倉敷市大学連携推進会議²⁹⁾は、9年度目に至っており、主たる活動としてはライフパーク倉敷での各大学からの無料市民公開講座(おかやま高梁川流域倉敷市大学連携講座)である。

さらに、本学は直接的に関与しないが、インターンシップ事業（主として倉敷市役所での体験など）、卒業生の市内企業への就職の調査や、倉敷市保健所からの自殺に対するゲートキーパー養成³⁰⁾の情報開示などの展開が行われている。現在、新入生オリエンテーションに、倉敷市保健所の担当保健師よりゲートキーパーについての紹介の時間を持つようになったのも、この推進会議に参加したことによる。

本学も設立当初から講座を提供しており、2019年度の実施講座と2020年度の予定は、表3に示す。2019年度は、22名から43名の受講生があり、全体の平均が科目当たり28名であるので、まずまずの結果であった。科目によっては、保護者同伴の小学低学年対象や、中学生以上というのもある。加えて、中国職業能力開発大学校などは実技を伴うため大学校の現地で、また、岡山大学資源植物科学研究所も実物の観察を伴う科目であって現地で開講していた。

また2020年度はコロナ禍であったが、まず「広報くらしき」での公開の事情で科目設定が7月

末以降となるため、非開講はなかった。ただ、定員50名のところを、ソーシャルディスタンスのために25名とするなどの対応があったため、今年度については、受講生数というより、年度末の受講生の感想などで評価をしていきたい。講義提供を行って頂いた担当の教員には感謝したい。

担当している倉敷市企画経営室もSNSの利用などで広報に努めてはいるものの、こちらも吉備創生カレッジのように有料ではないとは言っても、年数が経ってきたため開始1～2年度に比べると平均受講生は減少してきている印象である。

2020年度は中止となったが、学校法人川崎学園が倉敷市との包括協定の中での取組として、市民公開講座が開講されることになった¹⁵⁾。ここには倉敷市大学連携推進会議の参画校である本学および川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学の教職員も講師として参画することになる。講師依頼を受ける教職員にとっては、大学コンソーシアム岡山の吉備創生カレッジなども含め

表3 2019年度から2020年度にかけての倉敷市大学連携講座への川崎医科大学提供科目

テーマ	講義年月日 (含:予定)	担当教員 (所属)
2019年度：単発講座		
・強い骨を作って骨粗鬆症を予防する	2019年9月13日	曾根 照喜 (放射線核医学)
・お家でできる予防シリーズ ～つらい腰痛&危険信号・高血圧	2019年10月26日	高尾 俊弘 (健康管理学) 村松 友里 (附属病院健康管理センター)
・免疫が混乱！ 自己免疫疾患ってこんなしくみ	2019年12月19日	大槻 剛巳 (衛生学)
2020年度：単発講座		
・快適な睡眠で健康生活	2020年9月9日	石原 武士 (精神科学)
・ストレスと上手に向き合う ～正しく学んでカンタン対処法を学ぼう	2020年10月16日	高尾 俊弘 (健康管理学) 井上 雅子 (附属病院健康管理センター)
・心に響いて身体に効く、 ディジュリデュ健康法	2020年11月26日	大槻 剛巳 (衛生学)

て、区別が付きにくいことであろうと想像する。また、一般向けのテーマとして、ある程度限定されたテーマとなることもある。また、川崎医療短期大学は2022年度より、岡山市に拠点を移すことにもなるのだが、倉敷市大学連携講座への学園内大学の貢献が減少しないような工夫も必要になってくるかも知れない。

3. おわりに

筆頭著者が主に関わっている川崎医科大学での大学連携を中心とした対外活動についてこの1年の状況を報告した。大学コンソーシアム岡山においても倉敷市大学連携推進会議でも、本学が関わっているのは市民講座である。大学コンソーシアム岡山の社会人教育委員会の事業は、2020年度に他の大学コンソーシアム岡山の事業と比べると、改革を行ったのであるが、コロナ禍によってなかなか十分な推進には至らなかった。ただし、筆頭著者の大学連携担当副学長補佐の任期は、2020年度一杯となるため、2021年度からの担当の教員には、それぞれの大学連携の意義の中で、医科単科の大学ではあるが、岡山県そして倉敷市に立地する高等教育機関としての役割の存することを理解の上で、対応をお願いしたい。

謝 辞

本稿で紹介した多くの活動については、学内の多数の教職員の方々のご理解とご協力によって実施し得た事業が多くありました。誌上ではありますが、謹んで感謝の意を表したいと存じます。まことにありがとうございました。

引用文献

(ウェブサイトについて、すべて2020年10月16日にアクセス可能であった。)

- 1) 大槻剛巳, 毛利聡, 虫明基, 富田正文, 西村泰光, 松島眞治, 勝山博信, 川西礼美, 福永仁夫: 川

崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その1. 川崎医学会誌一般教養篇 37:31-46, 2011

- 2) 大槻剛巳, 小笠原康夫, 柏原直樹, 佐藤稔, 大澤裕, 矢田豊隆, 毛利聡, 山内明, 武井直子, 前田恵, 西村泰光, 小野寺昇, 望月精一, 茅野功, 川西礼美, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その2. 川崎医学会誌一般教養篇 37:47-59, 2011
- 3) 大槻剛巳, 日野啓輔, 種本和雄, 藤田喜久, 中塚秀輝, 長谷川徹, 中野貴司, 田中孝明, 芝田敬, 松崎秀紀, 李順姫, 武井直子, 西村泰光, 清菫恵美, 樋田一徳, 佐々木和信, 川西礼美, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その3. 川崎医学会誌一般教養篇 37:61-75, 2011
- 4) 大槻剛巳, 虫明基, 富田正文, 寺田喜平, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その4 -2011年度半ばから2012年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 38:1-15, 2012
- 5) 大槻剛巳, 寺田喜平, 山内明, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携, 対外活動について: その5 -2012年度半ばから2013年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 39:1-14, 2013
- 6) 大槻剛巳, 寺田喜平, 山内明, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その6 -2013年度半ばから2014年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 40:1-20, 2014
- 7) 大槻剛巳, 寺田喜平, 山内明, 福永仁夫: 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その7 -2014年度半ばから2015年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 41:1-21, 2015

- 8) 大槻剛巳, 山内明, 寺田喜平, 李順姫, 西村泰光, 福永仁夫：川崎医科大学における大学連携, 産学官連携, 対外活動について：その8 -2015年度半ばから2016年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 42:1-18, 2016
- 9) 大槻剛巳, 李順姫, 福永仁夫：川崎医科大学における大学連携活動について：その9 -2016年度半ばから2017年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 43:1-11, 2017
- 10) 大槻剛巳, 李順姫, 長谷川真紀, 柏原直樹, 福永仁夫：川崎医科大学における大学連携活動について：その10 -2017年度半ばから2018年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 44:3-14, 2018
- 11) 大槻剛巳, 福永仁夫：川崎医科大学における大学連携活動について：その11 -2018年度半ばから2019年度半ばにかけての活動-. 川崎医学会誌一般教養篇 45:11-26, 2019
- 12) 大槻剛巳, 山内明, 西村泰光, 西山和成, 本地直貴, 青江智子, 多田美津恵, 川西礼美：産学連携知的財産管理室 -2016年度活動報告-. 川崎医学会誌一般教養篇 43:13-28, 2017
- 13) 大槻剛巳, 山内明, 西村泰光, 西山和成, 本地直貴, 青江智子, 多田美津恵, 川西礼美：産学連携知的財産管理室 -2017年度から2018年度半ばまでの報告-. 川崎医学会雑誌一般教養篇 44:15-30, 2018
- 14) 大槻剛巳, 山内明, 西村泰光, 本地直貴, 青江智子, 多田美津恵, 荻野ふみ, 日下彩生, 西山和成：産学連携知的財産管理室-2018年度から2019年度半ばまでの活動報告-. 川崎医学会誌一般教養篇 45:27-42, 2019
- 15) https://k.kawasaki-m.ac.jp/data/gakuen_kouza/ (川崎学園市民公開講座：ウェブサイト)
- 16) <http://www.consortium-okayama.jp/> (大学コンソーシアム岡山：ウェブサイト)
- 17) <http://opu.ac.jp/> (岡山医療専門職大学：ウェブサイト)
- 18) <http://www.consortium-okayama.jp/kibi-sousei.html> (吉備創生カレッジ：ウェブサイト)
- 19) <https://www.pref.okayama.jp/page/503268.html> (岡山県大学ガイド2021：ウェブサイト)
- 20) https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/503268_4960638_misc.pdf (岡山県大学ガイド2021 (全体版・見開き・閲覧用) PDFファイル：ウェブサイト掲載)
- 21) <http://medica.sanyonews.jp/article/11173/> (山陽新聞デジタル版岡山の医療健康ガイド：ウェブサイト)
- 22) http://www.okayama.med.or.jp/pickup_2/2019_judokituenbousi/files/youbousho.pdf (岡山県受動喫煙防止条例制定要望書：ウェブサイト)
- 23) <https://www.facebook.com/didgeridoohealthmethod/> (一般社団法人ディジュリドゥ健康法普及協会：facebookホームページ)
- 24) Lee S, Yamamoto S, Kumagai-Takei N, Sada N, Yoshitome K, Nishimura Y, Kojima T, Otsuki T. Didgeridoo health promotion method improves mood, mental stress and stability of autonomic nervous system. Int J Environ Res Pub Health 16; 3443, 2019 DOI: [org/10.3390/ijerph16183443](https://doi.org/10.3390/ijerph16183443)
- 25) <https://www.cocplus.oka-pu.ac.jp/> (岡山県立大学COC+：ウェブサイト)
- 26) https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201901/detail/1421755.htm (文部科学省、平成30年度文部科学白書、特集1-2040年に向けた高等教育のグランドデザイン：ウェブサイト)
- 27) https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/chihoudaigaku_miryokujitsugen/r2-09-02.html (内閣官房・内閣府 総合サイト、地方創生、「まち・ひと・しごと創生本部」：ウェブサイト)
- 28) https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/chihoudaigaku_miryokujitsugen/pdf/r2-09-02-shiryos3.pdf (内閣官房・内閣府 総合サイト、

地方創生、「まち・ひと・しごと創生本部」, 地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議(第1回)議事次第、資料3・文部科学省説明資料: ウェブサイト

- 29) <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/dd.aspx?menuid=11923> (倉敷市・おかやま高梁川流域・倉敷市大学連携講座: ウェブサイト)
- 30) <https://www.city.kurashiki.okayama.jp/24207.htm> (倉敷市・ゲートキーパー研修: ウェブサイト)